

総務文教委員会記録

令和2年4月24日（金）
09時30分～11時10分
第1委員会室

【委員】西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員

【委員外】

【議長団】

【事務局】下間書記

【議題】

1. 総務文教委員会で取り組む課題について

2. その他

【議事の経過】

[09 時 30 分 開議]

西村委員長

ただいまから総務文教委員会を開催する。議題は取り組む課題ということで、これまで2回話し合ってきたが、今日は出されたテーマについて2つずつ、理由も添えて出していただき、できればテーマだけは今日決めてしまいたい。

時間はあるかと思うが、できるだけ今日中にテーマに限っては結論を出したい。

1. 総務文教委員会に取り組む課題について

西村委員長

牛尾委員から。

牛尾委員

1つは新型コロナウイルスの影響で教育に特に小中学校の義務教育にヒビが入っていると痛切に感じる。やはり憲法に謳われている何らかの補償をどうするのか、例えば浜田市モデルのようなものを早急に作らねばならないと思う。例えばこういう状況下での子供たちの栄養状態がどうだとか。

今回、全国に緊急事態宣言を広げたのはいろんな説があるが、総理が10万円を全国民に一律に配るために宣言したのではないかという見立てがあり、僕も同意見である。

どこかの知事が言ったように、朝令暮改のような一斉に休めというような言い方は少し問題があるのではないか。地方は地方でセカンドオピニオンを出す、そうあるべきだろうと。具体的に言えば、松江でクラスターが発生した、浜田からは110キロ程度の距離がある。そうするとそこまで浜田市が何かしなければいけないのかということも含め、浜田も子供たちを一律で閉じ込めて良いのか。そういうことも考えながら、こういう非常時に浜田の教育を守るためのルール作りが必要なのではないか。例えばインフルエンザの場合はルールがある。1人休んだら学級閉鎖、複数の学級で発生したら全校閉鎖。そういうものを作っておく必要があるのではないかと思う。

100年に一度の国難と言われるこのような場面に遭遇して、それに対してどのようなメニューを1つ作り上げるかが、ちょうど与えられた使命ではないかと僕は勝手に思っている。それを何とか取り上げていただきたい。これはお願いである。

もう1つは、三浦委員のプレゼンを含め、委員長が言われた幼稚園の問題とか、西川委員が言われた美川小と四中の問題とか。その辺をくくって教育の問題としてやっていただければと思う。

3つ目を言うなら、公共交通の関係であるが、前回積みあげた上の積み上げをやるというのが、考え方としてあるかなと考えた。

西村委員長

最初に言われた分が、いわゆる皆が出されたテーマにはない。

牛尾委員

ない。わがままを言うのだが、せめて2本に絞るなら目の前の新型コロナウイルスの影響の中、浜田の教育モデルを作っていくのが必要なのだろうと思う。その考え方が浸透しなければそれはそれで仕方がないが。

西村委員長

分かりはしたが、誤解がなければ良いが、2つずつそれぞれ出してもら

い、最終的には1本に絞る予定にしている。それは理解しているか。

牛尾委員

理解しているが、前回休んでいるので。2つのうち最初に言った1つは前回のテーマと少し違うが、本質的な問題なので皆の理解がいただければと思った。あとは全てルールどおりにお願ひする。

西村委員長
西川委員

とりあえず進めよう。

私からは小中一貫教育についてだったが、1つ目は地域公共交通について。先ほど牛尾委員も言われたが、昨年度にテーマに取り上げたが、最後までいってないこともあり、今年度は執行部もドアツードアの手段を検討されているので、議会としても委員会としても、それについて調査研究して、執行部と議論して、より良い政策を作り上げるためにはこれをしっかりやっていきたい。

もう1つは、三浦委員が前回追加で提案された、幼児教育について。これを選んだ理由は、前回私も言ったのが、子育て支援が福祉関係ということもあったのだが、縦割り行政を乗り越えて議論していくことも非常に重要ではないかと。教育は縦に割れるものではないので幼児から社会教育まで一貫して議論することも必要だと思うので、そういう意味で幼児教育を取り上げてはどうかと思った。

芦谷委員

何としても結論が出やすい。答えもわりとそこにあると思ったもので、1つは私が提案した、市民参加条例である。まちづくり推進条例が進められるが、これには住民の市政への参加と予算の反映しかない。従って、まちづくり推進条例が作られるに併せて、もっと市民が市政に参加する手順などを定める条例制定が答えである。

2つ目は西川委員の小中高一貫教育である。これも美川地区の問題ではあるが、過疎化を迎える浜田市にあってどうしても、どの地域にもあまねくある問題なので、取組んでいただきたい。美川地区についても、早急に教育委員会から方針が示されるが、それに先んじて美川地区と言わず、人口減少を進む浜田市において一貫校のモデルの答えを出していききたい。

上野委員

1つ目に人材育成について、を挙げたい。これから協働のまちづくりに向けて、大変重要なテーマだと思うので、できるだけ1番に挙げていきたい。

2つ目は三浦委員の、幼児教育について。これも、子育て支援センターやこども美術館など、こどものエリアができるので、今のうちにそういうことを話しておくのも良いのではという気がした。

西田委員

私の考えは、芦谷委員に近いものがある。これから自治区制度に代わる協働のまちづくり条例に向かっていくので、非常に重要なことだと思っている。しかしながら、あらかじめこの委員会でチャレンジする意味では、前から思っていたが小中一貫教育のモデルとなる美川地区のことは、地域としては特化しているので、その一貫校というのは、市の方針とは違うがチャレンジする意味では良いと思う。

もう1点は、前回、三浦委員が後から付け加えられた、就学前の教育について。私個人的にも、義務教育になってからよりもそれ以前の人間形成、感性など、もっとも重要なのは、生まれてから義務教育が始まるまでの間、本当はここが人間として一番重要な時期なので、そこに切り

込んでいくこと。この委員会として行っていくには非常に重要だと思った。

永見委員

昨年の総務文教委員会のテーマである、公共交通の確保対策について提案させていただいたが、皆の意見や資料を読み、次の2点を選ばせていただいた。

1つ目は三浦委員の提案した、ダイバーシティの推進について。共同参画の推進計画、人権計画を見直す業務が入ると伺った。また次長が言われたが、合併前の浜田市の条例を引き継いでそのままであり、合併のタイミングで新たに作られたわけではないとかがったので、委員会として浜田市の男女共同参画推進計画について、他市事例も参考にしながら議論を行ったらと思い、選ばせていただいた。

2つ目としては、西田委員、西川委員が提案されている、新規の人材育成、まちづくり人材育成についてである。私も各地域の組織のリーダー不足や高齢化等での世代交代となっている時期もあり、今後、活動を行うのは大変であると聞いているが、地域組織を応援するため、また、まちづくりを進めるためにも、リーダーの育成が急務である。よってこれも重要な項目であると考え、選ばせてもらった。

三浦委員

選んだ理由は、今やるべきことというタイミングと、市民の関心などで課題感が大きいもの、加えて、委員会で議論を深めていくべきという軸をもう1つ加えて、皆の意見を伺いながら考えた。

1つは教育について。特にその中でも自分から提案させていただいているものだが、幼児教育。幼稚園の今の状況は浜田でしっかり考えていけないといけない部分だと思うので、これは改めて取り上げていただきたいという思いも込めて、1つ挙げさせていただく。

その延長で、2年間の中でどこまでこの幼児教育をやっていくかといった時に、先ほどの皆の意見も伺って、幼児教育だけでなく、義務教育の話にまで繋がっていくのかなと思った時に、冒頭に牛尾委員がおっしゃったような、新型コロナウイルスの今の話が浮かんできた。今、県内の公立の高校でも、オンラインの授業を率先してやっているところもあれば、宿題を出すのみといったように対応が皆違う。こういう状況の中で教育のあり方や、浜田市としてどういう教育環境を子供たちに提供していくのかというときに、対策が全然見えてこないことを考えると、そもそもその教育のあり方も含めて考えるときではないかと、牛尾委員と同じように思考がそこまで繋がったところがあったので。

例えば2年間のスケジュールの切り方として、教育というものを大きく捉えたときに、美川の統廃合も含めて、教育の中でも幼児教育、義務教育のあり方、小中一貫校のあり方、そのように区切られるのであれば、教育ということで取り上げていただけたら、いろいろと網羅できるのかなと思っている。絞るべきということであれば、幼児教育に1票入れたい。

もう1つは、公共交通のあり方。前年までの2年間の議論が十分煮え切っていないと以前、総務文教委員会に所属されていた委員もそのようにおっしゃっていたので、その煮え切らない状態を宙ぶらりんにするよりは、そこをしっかりと詰めていくという意味では議論の積み重ねができるので、

少し前に進めるのではないか、ということで公共交通を推薦したいと思う。

一応私からも意見を述べたいが、これは数字をまとめたものに少しコメントを加えただけで、目新しいものではないのだが、上のグラフは未就学児の薄い色の棒グラフ。これを見るとずっと右下がり、当然ながら減ってきている。そういう中で、施設入所のいわゆる保育所と幼稚園を足したものの入所率は71パーセント程度だったものが80パーセントを超えるところまで上がっている。この十数年で約10パーセント上がっている、共働き世帯が非常に増えつつあるのだとよく分かる数字だと思う。このグラフから直接は見えないが、保育園児のピークはもう過ぎている。2014年、平成26年がピークで、今は少し下がり気味になってきている。保育園はそういう状況だが、放課後児童クラブはまだ増えている状況が続いているので、タイムラグがあり過ぎると思うのだが、フラットになる状態にはなっていない。

その中で幼稚園はどうか下のグラフである。黒が公立、真ん中が私立、一番上がこども園の数字である。見たらわかるように幼稚園は一直線に下がってきている。その中で、こども園の幼児部はこの2、3年で増えている状況である。この中には2、3年前から私立と公立の保育料の差がなくなってきたこととか、こども園が新たに出現していた状況などは、幼児の世界では以前と違う。加えて去年11月から幼児教育の保育の無償化が出てきた。3月に子育て支援課が出した数字を一番下に書いている。これは3月時点なので、今年4月1日をにらんだ予測の数字である。市立の園児数は48人、前年比26人の大幅減。私立の夕日丘が41人で14人の減。18年度と比較すると良く分かるが、ものすごく減っている。私立と市立3園を足しても89人。だからもう恐らく、幼稚園は3園になったが2園でも人数的にはいける数字に見える。あるいは1園に絞っても良い状況であるので、当然そういう話が出てくると思っている。

ただ、それだけで教育を論じて良いのかという問題も同時にある。教育委員会に今までそれが全然ない。どういう保育所を設置するかという点で言っても、方針がずっとグラついてたし、明確なものがないように私には見受けられる。

いずれにせよ大きな推移的な流れの中で、特に公立幼稚園をどうするのかが問われてくるのは間違いないと思っている。幼稚園だけの問題ではないというのが、三浦委員の提起の中にあつたと受け止めている。このことに我々が取り組むのは非常に大きな意義があるし、今の教育委員会に明確な幼稚園行政の方針があるようには見受けられないことから、是非我々が提案型でことを進めていく意味でも、このテーマは非常にやりがいがあるように私には感じられる。それが、三浦委員が提案された幼児教育のテーマに共感するところである。

もう1つは先ほどから出ている、その延長線上にある小中の教育という意味で、西川委員の言われた小中一貫教育も良いなと思ったし、三浦委員が言われたように公共交通の問題も、中途半端で終わったという報告があつたように思ったので、これは後追いでけじめをつけるということでも良いのかなとも思ったのだが、私の思いとして、2つを選ぶという点

で言うとも西川委員の小中一貫教育のほうが良いかと思った。

牛尾委員の提言を受けて三浦委員が言われたように、今の非常時のときに義務教育をどうしていくかは非常に優れたテーマだと確かに思ったので、例えば1年を目途にして幼児教育をやり、2年目から義務教育をどう本当に、義務とするか。今の状況ではできてないのが現実だから、非常にやりがいのあるテーマになっていく気がする。取組によっては面白くなりそうである。たぶん1年もすれば少しは、ほとぼりが冷めて冷静に物事が取り組めるような状況になっている可能性があると思うので、2つめのテーマは西川委員が提案されたもので私は提案したい。

皆の意見をシビアに数えたわけではないが、今聞いて、幼児教育と小中一貫教育が、数的には多いように思うのだが、いかがだろうか。

幼児教育5人、小中一貫が3人、交通も3人である。

幼児教育から義務教育くらいまで広いスタンスで半年くらいやるようなスケジュールのほうが、皆の意見を聞いていると良いのではないか。

それは皆で議論すれば良い。そういう枠組みでいくということであればそれで良い。ただ、スタート時にそういう意識があるのとないのとでは決定的に違うので。

教育も幼児教育も含めて言う関連性があるので。私とすれば本当は入口を狭くしてから始めたい思いがあったのだが、ここまできると教育も義務教育も含めてやってまとめ、その中に小中一貫等を考える。結論を出すものを示すくらいのことにはしないと、私とは見解が違うので、義務教育、幼児教育では思った。だから、全体を束ねながら進めていき、その中に1つか2つの答えを出せば良いなと思った。

今の意見がイメージ的によくわからなかった。

全体をまとめて提言でもするとして、その中の結論的なものとして、小中一貫校について押し込んでいけば良いかなと思った。全体をまとめて進めながら、その中の答えらしきものとして例えば幼・小・中一貫校はこうしていこう、みたいなことが提言できればと思う。

芦谷委員が言われる、幼・小・中一貫校の話だが、私は逆である。何かこだわりがないと議論がしにくいというか。

こだわりということになればやはり、結論を出すとか具体的なことを示すということだと思う。その中で言えば小中一貫校は是非やれということを示せば答えは出る。そのためにはいろいろ研究や検討が必要と思う。

幼児教育が5人、小中一貫が3人か4人か微妙なところ、公共交通が3人ということだった。

去年の上に積み上げをする。幼稚園統合支援というのは僕が提言した造語である。教育委員会の視点はぐちゃぐちゃで、どこを走っているか分からない状況である。本当にモデル幼稚園、保育園を残そうという時に、民間保育園連盟が、1園でも残すなら受けないと言った。だから保育園はすべて民間に渡すしかなかった。そういう歴史もある。

1園は直営で、やはり保育園はこうあるべきだというモデルがなければいけない。その時に園側が反対した、何故か、職員の処遇が違うから保育園経営にとってマイナスなのだと。今の幼稚園は保護者が考えている

下間次長
牛尾委員

西村委員長

芦谷委員

西村委員長
芦谷委員

西村委員長

芦谷委員

西村委員長

牛尾委員

ような手厚いものではなく、教育委員会がやってこないから皆逃げる。教育委員会が何もしないことで幼稚園はもうないほうが良いというところまで来ている。挙句こっさり来て、幼稚園はどうしたら良いかと聞いてくる。そのようなことを私に聞くなと言いたい。お前らそれで給料もらっているのだろうと。だからやはり恵庭市のようにゼロ歳教育から力を入れて。そういうところがやはり、いま一番ついていけないところなのだろう。市が方針を見失っているから。どこへ行くか分からないところに教育方針を任せていいのかという問題もある。

西村委員長

まずテーマを選ぶとして、多いほうで選ぶという方針があるので各々に2つ選んでもらったのだが、幼児教育が5票出たので、これを外すわけにはいかないと思う。テーマの選定はそれで良いか。

西川委員

タイムスケジュール的な話として1年や2年という話が出ているが、今年度の政策討論会に1つのポイントがある。2年でやるのか、1年でやるのか、討論会を経て1年で完結するのか、その辺のスケジュールについてはっきりしたほうが絞りやすいのではないか。

西村委員長

それは議長と正副常任委員長6名とで集まって、こういう概略でいこうと決めたのは、とにかく焦って先走りのようなやり方ではなく、何のテーマでも良いが取組んで良かったと納得しながらやろうということ。

任期は2年なので最長でも2年の間で結論は出そうと、そういう話で落ち着いた。3常任委員会がバラバラの動きになる可能性はある。1年で区切るのか、幼児教育だけで1年を目指して終わりにして、次のテーマを新たに決めるやり方もある。

ただ、テーマを決めるのに1、2か月はまたかかる。ある程度決めておいても言いかとは思うが、1年経てば情勢が変わるという見方もある。

芦谷委員

もう2年もない。

西村委員長

1年半くらい。

牛尾委員

改選期はあるがテーマはテーマとしてあるので。1年半なら1年半の中で、一番急ぐテーマから先に議論して行って、1つずつ結論を出していく考え方もある。

西村委員長

今日は皆に2つずつ募って集約した結果が幼児教育なので、それは外せないと思う。それでいこうということは合意できると思うが、では同じ教育なのだから小中一貫も含めて議論する考え方もあるとは思うので、その辺の整理を付けて今日は終わりたい。

牛尾委員

小中一貫教育は、美川モデルとして、地域もあるから、それは全市的に広がるようなテーマではない。だからその辺で分けて議論すると良いのでは。

幼児教育そのものが全般だし、浜田市の幼児教育をどうするかというテーマだし。小中一貫なら美川エリアで取組んできたことを政策として提案すべきではないかと、これは何とかしたいと思っている。2023年までには1人1台パソコンを前倒ししなければいけないということも言っているので、それについても提言をする必要があるのではと思う。

三浦委員

ここに書き出されているのを見ると、小中一貫は義務教育を考える中での1つのエリア的な特性だとか、こういうあり方が良いのではないか、こういう効果が出るのではないか、それを望むなら小中一貫という手法

があるよね、という1つの結論だと思う。

他の幼児教育はどうか、教育における美意識はどうか、公共交通のあり方はどうかというのは、結論がまだ出ていないものに対していろいろと研究していくというような、少し幅広いテーマだと思うので、テーマ設定が少し違うと思う。

問題意識としては、例えば西村委員長が提案された数字だとか、小中の統廃合が間近に迫っているとか、そういう市内の事象が着眼点ではあると思うが、今抱えている状況を踏まえて、義務教育のあり方を考えたり、幼児教育のあり方はどうかという着眼点でいけば、小中一貫に絞ってしまうと難しいのではという印象もある。しかし、ではこれについてはどうかというものは必ず取り上げて議論すべきだと思うのだが、テーマを見比べてみると、取扱い方がどうかかなと考える。

西村委員長

よく分かる。ただ教育のあり方、一般論のような入り方をすると少し厳しい。

西川委員

小中一貫については私が取り上げたので。牛尾委員を支援する意味合いもあったのだが。ただ、地域ぐるみという美川の特性もあるのだが、地域と学校の繋がり、コミュニティ、そういうものがモデルになるかなと思ったので。美川地区限定というよりも、美川地区の良いところ、地域性がモデルになればという気持ちもあった。そういう意味では、美川地区の問題というより浜田市の問題として取り上げたい。

牛尾委員

ありがたい話。やはり15歳までは、地域で育てるということをやっていかないと、地域に帰ってこない。

西村委員長

小中一貫というよりは、地域と学校がどう関わるか、地域づくり。

西川委員

四中がなくなると、地域との繋がりもなくなってくる。やはり小中一貫プラス地域というのは、小中がないと難しいかなと思って取り上げている。

三浦委員

話を聞いていて、美川の地域コミュニティのあり方は1つのモデルだと僕も思っていて、その中でいくと小中一貫で入っていくと、学校のあり方みたいなものが軸になってしまうのだが、西川委員の今の話を聞くと、地域を考えたときに学校というのが地域の拠点になっていたり、小さな拠点などいろいろな施策を打たれているが、その中で学校はどうかだろうとか、それは議論すべき価値はある。形のあり方と、それがなぜそうなのかを考えたときに、地域というのは絶対に出てくる話なので、それは教育で括らずに、地域コミュニティのあり方とか、そういうところにもご提案された背景があるのかなと。それは僕も共感するところがある。

西村委員長

そうするとコミセンの話に入っていく感じ。

牛尾委員

美川の場合は、目の前に差し迫った問題なのである。統合審議会の議事録を読んでも、教育委員会がいろんな結論を誘導している。教育委員会の考え方に沿った結論を出しがちなのである。野藤議員が教育委員だった当時、書名を集めてひっくり返した。当時の教育委員会の本音は、上から方針を示されたらそれに沿ったような結論を出すしかないというものだった。それはおかしい。おかしいことが多すぎる。

芦谷委員

地域には学校も大事だし公民館も大事である。幅は広がるが、幼・

小・中にしっかり軸を置いて、コミュニティセンターも視野に入れながら考えていく。コミュニティセンターは向こう、こちらはこちらではなく、地域づくりのためには一緒に考えていくベースは要と思う。

牛尾委員
西田委員

地域で子供を育てるといのは例えば、教育であろう。

美川の場合は地域の人に関わりが多いので、1つのコミュニティスクールはある程度実践されてきている。あまりコミュニティスクールということでは取り上げていないけど、実際は地域の関わりが相当強い。その辺ももう少し取り上げてみたらどうか。

牛尾委員

今、現実的な提案は、小中一体型の校舎で共通部分を作れば、全体的にコストはかかるが2つの学校を建てるほどはかからないというところを提案しながら。なぜ美川モデルが作れないのか。それが地域に子供が返ってくる可能性が高いし、地域が子供を育てているわけだから。それがなぜ波及しないのか分からない。せっかく10年以上続いているモデルがあるのだから、美川モデルを作ろうと言えば浜田市の教育委員会も株が上がるように。

西田委員

今までのいろいろを見ていると、その地域だけ特別なのを作ったというか、格差があったりとか、予算の違いがあったりとか。何か皆同じような感じにしたいようだが、本当の教育とはそうではなく、地域の特性があるところは延ばしていき、それを周りが見て見習う、自分たちの地域で何ができるかを考えていく。いろいろと新たな取組はできる。だから本当は、特性のある所をどんどん伸ばしていけば、必然的にいろいろな地域が前向きにいろいろ考えてくれる。それがあべき姿だと思うのだが。

牛尾委員

美川地区は、活力を持続できる継続できると地域を挙げて言っているのに、なぜそれが伝わらないのか。そういうものを全体に作っていけば、それだけ町が元気になる。それをなぜうなずけないのか。

西田委員

同じクラスの中でも一人一人が皆特性を持っていて違う。良い部分、伸ばせる部分はどんどん伸ばしてあげたら良いだけのこと。それはどの地域も同じこと。

三浦委員

幼児教育を軸にして考えても、いまも各公立幼稚園の取組などからすれば、地域との接続や近隣の小中学校との繋がりとか、今、現在も取り組まれているところを踏まえれば、幼児教育を1つのテーマにしてそれを議論していけば、自ずと地域社会との接続とか義務教育との接続とかに触れていくことになると思うので、そこから考えていけばきっと小中一貫の辺りまで触れてくること、地域コミュニティのことに触れていくとか、議論はそうなるのではないかと思う。一緒に議論する中で出てくるのではないか。

西村委員長
永見委員

私はそういう考え方である。

私も幼児教育を中心として、その中で地域コミュニティや小中一貫は関わり合いが出てくると思うので、幼児教育を軸としたテーマの中で議論を重ねていくほうが良いのではないかと私も思う。

西村委員長
永見委員
西村委員長

それでは、タイトルはどうするか。

福祉環境委員会と被りはしないか。

幼児保育ではなく、幼児教育ということで。しかし「幼児教育について

て」ではつまらない。

三浦委員 シンプルに「浜田市の幼児教育のあり方について」とか。
西村委員長 何か面白くない。
西田委員 義務教育に向けての幼児教育。
牛尾委員 幼児教育から義務教育のスパンの中で何か良いタイトルが浮かべば。
西村委員長 要は三浦委員が言われたように、3歳までくらいが脳を決定づけるわけ
だろう。それにふさわしい教育委員会の。

牛尾委員 15年くらいで言えば、浜田市は小中連携だとか言っていた。
西村委員長 小中一貫も現実的には統合問題に引っ掛けられるので気を付けて。
牛尾委員 あまり教育現場に、行革や費用対効果という価値観を持ち込んでもら
っても困るという考え方を打ち立てないと、なかなかかもしれない。

西村委員長 タイトルは大事である。それで方向性が決まるのだから。
芦谷委員 提案する。「次代を担う浜田市教育モデルについて」
三浦委員 「浜田市における幼児教育の可能性について」
西川委員 「幼児教育から始める浜田市の教育改革」
牛尾委員 「浜田市における幼児教育から義務教育終了までの浜田市モデルにつ
いて」

永見委員 津和野は「魅力的な幼児教育を実践する環境づくり」とある。
牛尾委員 「幼児教育から始まる魅力的な浜田市モデルについて」。1週間くらい
あれば良いタイトルが出そう。

三浦委員 浜田市モデルよりは、浜田式が良い。
芦谷委員 先ほどの提案を修正する。「浜田市」を消し、「こどもの」と入れる。
三浦委員 ではもう1つ。「浜田市における幼児教育の魅力化について」
牛尾委員 「幼児教育の魅力化から始める浜田市の」云々。
西田委員 「幼児教育の魅力化の可能性」
三浦委員 「幼児教育から考える浜田市の教育の魅力化について」
(以下、タイトルの案出し)

西村委員長 育むか育てるか。
三浦委員 育てるにすると、こちらから一方的な環境作りになってしまうから、
自発的な部分を含めれば、育むのほうが、子供も自分で、こちらもそれ
を育てていくという両方に取れるから、そちらの方が良いのではないか。

西村委員長 それにしよう。それで方向性がはっきりする。
西川委員 浜田はつけないか。
西村委員長 それはまた考えよう。やっけていく経過で浜田が入った方が良いという
意見になるかもしれない。

牛尾委員 だいたい地域名を入れる場合が多い。恵庭市の事例で、0歳児から読み
聞かせをして、7歳になると今度は聞かせる側になるというのを聞いて
びっくりした。

西村委員長 結構集中して子供は聞くのだとか。私は経験がないが。
牛尾委員 それをすると子供が落ち着くらしく、学級崩壊が起きにくい。
芦谷委員 幼児というのは0歳から就学前か。
西村委員長 乳幼児と言えはそうなるのだろう。幼児と言えは3歳から辺りか。
では、そういうタイトルで。
次以降はどのように進めたら良いか、考えていないのだが。

牛尾委員
西村委員長
三浦委員
西村委員長
下間次長
三浦委員
下間次長
西村委員長
下間次長
牛尾委員
芦谷委員
西村委員長
芦谷委員
西村委員長
西川委員
下間次長
西村委員長
三浦委員
牛尾委員
三浦委員
西村委員長
牛尾委員
下間次長

正副委員長である程度、敲き台を作ってください。
中身ではなく進め方の素案を作れば良いか。では日程を決めてもらいたい。

これを調査研究していく中で、今は視察が難しいが、そういうことになっていくのだと思う。専門家の方々にレクチャーをいただくような機会、予算的なものも含めて可能なのか。

予算組によるだろうな。
専門的な方というのが公務員であれば呼びやすいが、民間の方だと謝金ということでは予算が足りない。

予算がゼロなら呼べないのが確定するが、可能性があるなら、しっかり研究するためには必要性があると思う。呼ぶならどういう形で呼べるか考えても良いのかなと思う。

浜田市議会の議員研修会という大枠の予算組はあるが、委員会ごとの研修費用はない。

今話を聞いていて思ったのだが、政務活動費10万円を出しあって、やり方を工夫したらできるのでは。

それは大丈夫だと思う。

あとは、島根県立大学と島根大学は連携しているから、その関係の教員に来てもらう手もある。

この前、県として人を呼んで勉強したが、あの時は中途半端に終わったので再度じっくり話を聞きたい。

私も聞きたい。

あの人とディスカッションしても良い。

あれはどう見ても言い足りなかった。ある意味では喜んで来てくれるだろう。

視察予算は流用できないのか。
旅費は基本的に流用できないルールがある。協議すれば可能かもしれないが、それは総務文教委員会だけで決めることはできない。

視察は、行政視察でテーマに沿うところを選ぶのが合理的だと思う。
視察費用の流用が難しいというのは以前から伺っているので理解しているが、しかし、今はこの状況で、視察の受入れもこちらから行くこともできないので、その交通費が宙に浮いて、研究調査するための費用が何にも使えないというのは、活動的にプラスになってない状況なので、現状も踏まえればそうしたものを流用して、オンラインでも良いのでどなたか先生に情報提供をいただくようなことも取り入れていくようなことも必要である。

移動ができない中での議会活動はどうあるべきかについて、議会改革の中でやっていきたいと思っている。

ぜひそちらの特別委員会でも議論していただきたい。
とりあえずこの1、2か月はどこにも行けない。来てもらえない。
一昨年くらいに、会派の視察で大学の先生の授業を受けたことがある。それは可能か。

それは可能な気がする。そこにお金が必要となると、また少し判断が違うかもしれないが。

牛尾委員
下間次長

お金が要るとは言わないだろう。

先ほどの旅費を流用する話については、確かに今年度はなかなか行政視察に行きにくいかもしれないので、また事務局で、必要があれば議運にかけて、話したいと思う。

西村委員長

次回までに正副委員長で、こういう段取りでこういうことについて議論していくという敲き台のようなものを作ってくる。三浦委員にも少し加わってもらわないといけないかもしれない。

下間次長
西村委員長
下間次長

先ほど言われた、勉強会みたいなものも少し考えたいということか。

はい。もちろん。

それはこの間の全議員対象でされた、乳幼児の教育についてということで、教育センターから来られた、ああいう感じか。

西村委員長

そう。今後は皆もいろいろな情報を仕入れてやっていきたい。

では次回を決めて終わりたい。

(以下、次回日程調整)

では、5月11日(月)の13時30分から。

(「はい」という声あり)

その他はいいだろうか。

(「なし」という声あり)

では以上で委員会を終了する。

[11 時 10 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ㊟